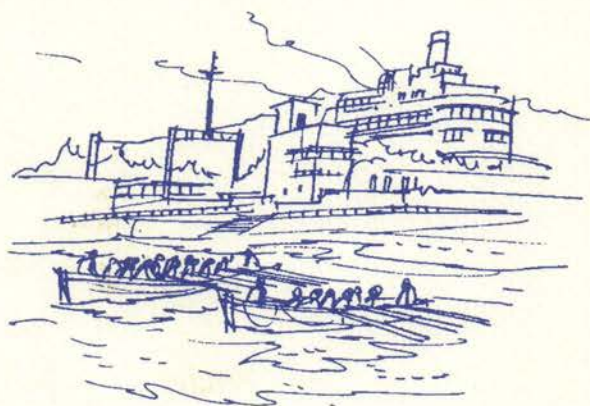


**Let's Discuss**  
**“Crisis and Leadership”**  
**with Young People from All Over the World**

「世界の若者と考えよう！ キミの危機管理とリーダーシップ」

# 1998～1999年 春のライラ

国際ロータリー指導者養成セミナー 記録



日時 1999年5月3日（月）～5日（水）  
場所 大阪府立青少年海洋センター  
大阪府泉南郡岬町淡輪6190番地  
TEL: 0724-94-1811  
FAX: 0724-94-1735  
主催 国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会  
ホスト 大阪鶴見ロータリークラブ

**Osaka-Tsurumi RC Hosting**



**RYLA**

**1999 Spring, R. I. D-2660**







# ロータリーについて

## ロータリークラブの誕生とその成長

今から94年前、1905年、経済恐慌で人心の荒れすぎんでいたアメリカ社会、特にシカゴの状態を憂いた青年弁護士ポール・P・ハリスが、3人の友人と語らって、2月23日第1回の会合を開いたのがロータリークラブの誕生です。ロータリーとは、会員が持ち回りで、各自の事務所で順に集会を開いたことから名付けられました。

## 日本のロータリー

我が国のロータリークラブは、1920年（大正9年）10月20日、初めて東京に創立され、翌年4月1日に世界で第855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟承認されました。現在では全国各地に拡がって、クラブ数も2,267、会員数126,512人（1998年末）に達し、なおすべての都市、町にその理想の翼を拡げる努力をしています。

会員は地域内の理想に燃える堅実な実業家、専門職業人の中から定款により、一業種一人を選び、週1回のクラブ例会出席によって、各種職域人との交友を通じて、地域社会へのより多くの奉仕の機会を得ようとはかっています。

## ロータリーの目的

各自の職業を通じた「奉仕の理想」を目的としています。

- 1) 広く知り合いを求めて奉仕の機会を多く持つ。
- 2) 各自の職業に誇りを持って、その道徳的水準を高める。
- 3) 公私の区別なく奉仕の理想を実行する。
- 4) 理解と友情を国際的に広める。

Rotary Youth  
Leadership  
Awards=Ryla

## ライラ

ライラは「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と訳されています。地区内の若い人々とロータリアンを一緒に参加させるプロジェクトで、若い人々の指導者及び善良な市民としての資質を伸ばすことを目的としています。当地区では、各クラブの協力を得て、毎年春と秋に実施しています。





1998～1999年、春のライラのテーマ

# 「世界の若者と考えよう！

# キミの危機管理とリーダーシップ」

## テーマの趣旨

平和日本の若者の多くにとって、阪神大震災などの例を除けば、毎日の生活の中で生命に関わるような危機に遭遇した経験は稀でしょう。

しかし、そんな大きなことでなくとも、学業や仕事あるいは家庭生活の中で危機に見舞われ、それらに対処していることは誰にでもあることでしょう。

同様に、スポーツやゲームまたはテレビ、書物を通じて危機対応の疑似体験を積んできていますが、実体験を通じて学ぶことは、幸いにして少ないことと思われます。一歩、広い地球を見回せば、世界の各地での紛争、災害、経済、環境問題などいろんな危機に満ち満ちています。

そんな観点に立って、今回のライラのテーマに危機管理を取り上げ、危機に遭遇した場合にどのようにリーダーシップを発揮していくかを皆で考えて行きたいと思っております。

限られた日時の中で、その目標に近づけるよう、またここ海洋センターの海とも親しめるようなプログラムを考え、さらに、世界の若者との出会いの機会もつくれるよう、配慮致しました。





# 来賓およびスタッフ

## ●第2660地区

ガバナー 吉川謹司 (東大阪東)  
インカミングガバナー 柏木 尚 (豊中)  
地区幹事 石田 肇 (東大阪東)  
ローターアクト委員長 小西眞明 (寝屋川)  
次期ホストクラブ会長 石田俊夫 (交野)

## ●大阪府立青少年海洋センター所長 片岡弘尚

## ●第2660地区青少年奉仕部門

担当バスターガバナー 大森慈祥 (茨木)

### 青少年活動委員会

委員長 有賀一夫 (大阪咲洲)  
副委員長 三浦高行 (東大阪)  
委員 板垣美一 (大阪住吉)  
    〃 西田恵心 (大阪城北)  
    〃 中井敬和 (八尾中央)  
    〃 増成恒哉 (大阪)  
    〃 北山孝和 (大阪中央)  
    〃 渡邊哲也 (交野)  
    〃 疋田茂雄 (守口)  
    〃 田中信明 (大阪鶴見)



## ●ライラストaff

石川順子  
村木繁之  
国分 学  
山野優子  
金子峰加





# セミナープログラム

## 1998~1999 RYLA Seminar Program

	第1日〔5月3日(月)〕	第2日〔5月4日(火)〕	第3日〔5月5日(水)〕
6:00		起床 Day begins (6:00)	起床 Day begins (6:00)
7:00		朝の集い Meeting 班別打ち合せ (7:15~8:00)	朝の集い Meeting 班別打ち合せ (7:15~8:00)
8:00		朝食(食堂) Breakfast (8:00~8:45)	朝食(食堂) Breakfast (8:00~8:45)
9:00		交通問題 (Lecture on the Traffic Problems) (8:45~9:15)	テーマ討論 Discussion (9:00~11:00)
10:00		救助法、カッター活動 Training for Rescue Activities on the Cutter (9:30~12:00)	
11:00			テーマ発表 Presentation (11:00~12:00)
12:00		昼食(食堂) Lunch (12:00~13:00)	昼食(食堂) Lunch (12:00~13:00)
13:00	集合・登録受付 Assembly/Recept (13:00~14:00)	野外活動: サンドアート Outdoors activity: Sand Art (13:00~16:00)	閉会式 Closing Ceremony (13:00~13:30)
14:00	開会式 Opening Ceremony (14:00~14:30) 記念講演 Lecture (14:30~16:00)	(雨天の場合は屋内活動) (Indoors activity in case of rain)	後片付け Clearing (13:30~14:00)
15:00	講師 水野彌一氏 京都大学アメリカンフットボールチーム監督		解散 Take Leave (14:00)
16:00	パネルディスカッション Panel Discussion (16:00~17:00)	バーベキュー用意 Preparation for barbecue party (16:00~17:00)	
17:00	オリエンテーション Orientation (17:00~17:30), 部屋に移動Check-in	バーベキュー大会 Barbecue Party (17:00~19:45)	
18:00	夕食(食堂) Supper (18:00~19:00)		
19:00	班旗製作 Production of Flag (19:00~20:00)	後片付け Clearing (19:45~20:00)	
20:00	班会議 Group Meeting (20:00~21:30)	班会議 Group Meeting (20:00~21:30)	
21:00	班リーダー会議 Leader Meeting (21:30~22:30)	班リーダー会議 Leader Meeting (21:30~22:30)	
22:00	消灯 Light-out (22:30)	消灯 Light-out (22:30)	

# 開講式 式次第

## Opening Ceremony

### 第一部

司 会 武市智寿

- 開会点鐘 大阪鶴見ロータリークラブ会長 村瀬景三
- 国歌斉唱 「君が代」 ソングリーダー 松岡茂雄
- ロータリーソング "R-O-T-A-R-Y" ソングリーダー 松岡茂雄
- 開会宣言 大阪鶴見ロータリークラブRYLA 実行委員長 佐藤俊一
- 歓迎の辞 大阪鶴見ロータリークラブ会長 村瀬景三
- 来賓の紹介と挨拶 地区青少年活動委員会委員長 有賀一夫
- 挨拶 第2660地区ガバナー 吉川謹司  
同ローターアクト委員長 小西眞明  
大阪府立青少年海洋センター所長 片岡弘尚
- 閉会点鐘 大阪鶴見ロータリークラブ会長 村瀬景三

### 第二部

- 記念講演 「危機に求められる人材」 講師 水野彌一

- パネルディスカッション

テーマ「世界の若者と考えよう！

キミの危機管理とリーダーシップ」

コーディネーター 浮舟邦彦（大阪鶴見ロータリークラブ）

谷 康平（大阪鶴見ロータリークラブ）

パネラー 降矢直人

エミー・アーネスティ・バーグマン

フォン・チェン・ミュー



## ●歓迎の辞

大阪鶴見ロータリークラブ会長  
村瀬景三



本日は春のライラ開講式に際し世界中の留学生、日本語学校の皆様、又ローターアクトその他ロータリアンの子弟の方々皆様方共々御参加を戴き有難う御座います。尚本日御多忙の中2660地区ガバナー吉川謹司様、バスターガバナー大森慈祥様、インカミングガバナー柏木尚様、地区青少年活動委員長有賀一夫様、各氏を御迎えして錦上添花を添え戴きました事誠に有難く御礼を申し上げます。尚本日御講師として御多忙の中を曲げて御出席戴き御講演を戴くのは水野弥一先生で御座います。先生は京都大学アメリカンフットボール部の監督を勤めておられます。国立大学の勉学の徒を率いて関西学生リーグに於て10回東西大学リーグの優勝者と争い、大学日本一を決める甲子園ボールに於て6回大学の優勝チームと社会人の優勝チームが争って実質日本一の決定戦であるライスボールにて4回の優勝を成し遂げられると云う輝かしい戦績を残されておられるのであります。今回の春のライラのテーマは『世界の若者と考えよう！キミの危機管理とリーダーシップ』であります。本日の記念講演の演題は『危機に求められる人材』であります。本日皆様がこの春のライラに御参加頂きリーダーとしての資質を研修されるのでありますが、うって付けの良い先生に御講演を戴けるのは望外の喜びと致す所であります。今回は上級ライラの研修も行っておりますが、此処に皆様と共に5名の上級ライラを修了されたライフスタッフの方々の御参加があり御指導を戴く事になっております。本日より2泊3日の研修であります。ルールを守り宜しく御研鑽を頂きたいと思います。皆様方の御健康を祝して挨拶とさせていただきます。

## ●ガバナー挨拶

国際ロータリー第2660地区ガバナー  
吉川謹司



本日は、ホストクラブであります大阪鶴見ロータリークラブ、村瀬会長様、佐藤実行委員長様、そして地区青少年活動担当の有賀委員長様はじめ委員の皆様、大阪府青少年海洋センター所長様、並びに、多数の会員の皆様の周到なご準備のお陰をもちまして、RYLAプログラムを開催することができました。ありがたく厚く御礼申し上げます。

ロータリーは現在、世界160カ国に120万人の会員を擁し、日夜さまざまな奉仕活動にたずさわっております。私たちの先人が、1907年に最初の奉仕プロジェクトを実行して以来、その高潔な精神が90年以上のながさに渡って受け継がれ、大きな広がりを見せておりますのは、ひとえに、奉仕への情熱が常にロータリーの輪の中に注がれ続けてきたからです。そしてその情熱とは、多くの優れた人材の参加によってもたらされたことは言うまでもありません。

世界に優れた人材があふれること—それは、若者の健全な成長によって可能となります。とりわけ、未来への展望が不透明な昨今においては、若い皆さんが将来の指導的地位を担う人材となるべく自己研鑽に励まれ、地域における善良な市民に育ていただくことが、何より重要と申せましょう。RYLAは、そうした若い皆さんの成長を支援するためのプログラムとして、世界各地で実施されているものであります。

二泊三日という短期間の研修ではありますが、皆さんがともに汗を流し、協力して何かを成し遂げる楽しさや、他人を思いやることの大切さを学ばれること、そして、互いの深い友情を育てられることを、大いに期待しております。



研修期間中は健康に充分気をつけられ、有意義な時間を過ごされますよう、そして最終日には、未来への確かな手応えをつかまれますよう切に祈念しご挨拶といたします。

## ●挨拶

地区青少年活動委員会 委員長 有賀一夫



青少年の皆さん、ようこそお出で下さいました。御来賓並びに役員の方々には御来席たまわりありがとうございます。地区恒例のライラをかくも盛大に開催することができましたことは、まことに嬉しい限りであります。申すまでもないことですが、ライラとは、やがて皆さん方が社会人として社会の中核として、活躍していただく際に、立派な市民、指導者として頑張っていたくための研修の機会を、ロータリーが提供申し上げるものであります。

ここでライラの歴史について申し上げてみたいと思います。1971年に国際ロータリーの理事会に於いて青少年奉仕活動のプログラムとしてライラが採択されスタートしました。わが国では、1976年、私共の地区、第2660地区で初めて実施されたのであります。23年後の現在は毎年2回、“秋のライラ”、“春のライラ”を開催致しております。これ迄に随分沢山の青少年が参加したロータリーの素晴らしい奉仕活動であります。

今回のライラは「世界の若者と考えよう！キミの危機管理とリーダーシップ」ということで、水野彌一先生の記念講演をはじめとして非常に多彩なプログラムが組まれています。また今回は初級ライラを受講されたかたがチャレンジ出来る“上級ライラ”も同時に開講いたしております。

最も大切なことは、皆さんがロータリーが考えていることを、ライラを通じてよく理解して、将来に役立てていただくことでもあります。今回特別参加された、国際青少年交

換学生の皆さん、米山奨学生の皆さん、ロータリー財団の皆さん、ローターアクトのアクターの皆さん、この素晴らしい海洋センターの海とも親しめるプログラムをホストクラブの大阪鶴見RCが考えていただきました。

世界の若者との出会いを通じて、どのようなことでもいいですから、自分なりに納得出来る何か一つ成果を持ってお帰り下さいますように、心から御期待申し上げまして挨拶といたします。

## ●挨拶

大阪府立青少年海洋センター所長 片岡弘尚



ようこそ海洋センターへ、心から歓迎致します。

この地は大阪市内から50km、府内で唯一自然の渚がのこっているところで、眼前には淡路島や明石大橋などが見わたせたり、自然豊かな地です。

海洋センターでは年間58万人の青少年に利用いただき、海洋活動を体験いただいております。

このたび、本センターにこの様に多数の方が参加されているのを拝見し、大変うれしく、力強く思っております。

明日から3日間、大変短い期間ですが、海の自然に親しんでいただいて、海洋活動のすばらしさを体験いただくとともに、グループ活動を通してリーダーシップ、メンバーシップの存り方を学んで下さい。

あいにく天気は下り坂ですが、皆さん一人一人の力により、すばらしいセミナーになることを期待しております。



# 記念講演

## 「危機に求められる人材」

水野彌一（京都大学アメリカンフットボールチーム監督）



ただ今ご紹介に預かりました水野です。我々はアメリカンフットボールをやっていますので、スポーツを中心にリーダーというのはどうあるべきかお話ししたいと思います。我々は勝つ為にアメリカンフットボールをやっている。勝つためには、皆がその気になることが一番大事です。そのためにリーダーは皆をその気にさせることが大事です。我々が何故アメリカンフットボールをやるかというところ、アメリカンフットボールは特殊なスポーツで、作戦と戦術が重要で、多少選手の出来が悪くても、戦術でカバーできるから、京大でも、勝ち目があるからです。

リーダーとしての監督の役割は選手の人材育成と環境作りと勝つための作戦を立てることです。

1年生は、強制せず、楽しく、自由に練習させる。1年生はお客さんです。基本を教え、体力をつけさせる。そうすると、自然に面白くなって来る。そうなるとうる気が出てきてどんどん練習するようになる。良循環です。

監督、コーチのリーダーシップに一番大事なものは、いかに上手く教えるかということです。教えるには、その人に合ったように教えることが大事で、初心者と上達者では全く違います。初心者には先ず基本を理屈と共に教える、理屈を理解させるために、コミュニケーションが大事です。

或る程度上達して来ると、壁に突き当たる。何度も練習を繰り返すと、ある日突然上手くできることがある。その時に良いイメージを掴む。これが「開眼」です。これを繰り返して上達していく。この開眼は監督が教えることはできない。本人が練習を通して掴んで行く外ないんです。

次に、キャプテンのリーダーシップによってチームは大きく変わります。或る年、非常に強いチームができたが、大事な試合で怪我人が多く出て負けた。次の年は前年のレギュラーの殆どが出てしまい、新チームは非常に弱いチームになってしまった。しかしここで僕が目付けた奴がいた。彼は他大学に入学して3年まで通ったが、どうしても京大でフットボールをやりたいと、僕に相談に来た。体が

小さく、足が遅いのでは見込みがないと反対したが、彼は見事に京大の入試に合格して、入部して来た。彼は選手としては見込みは無かったが、3年間下働きの役割に徹し、陰日向なく下級生の面倒を見ていたので、僕はこれは見込みがあると考え、選手達が選んだキャプテンを認めず、彼を指名した。選手達は文句を言ってきたが、押し切った。

2月の試験の最中に、夜中の12時過ぎにクラブハウスで、そのキャプテンの顔を見つけて聞くと、練習をやっていないと言う。「今年は見込みが無いと言って、やる気が無いなら止めてしまえ。」と言った。すると彼はそれから新4年生全員を電話で集め、夜中の2時から練習をやった。翌朝6時に見に行くと、4年生全員が2月の雨の中で練習をやっていた。この時からキャプテンのリーダーシップが確立した。彼は、自分が試合に出られる可能性は0にも拘わらず、先頭に立って激しい練習をし、自分は体がボロボロになっても練習をした。そのキャプテンの私心のない努力で、チームは纏まり、見事に立ち直って、学生日本一になった。もし彼がいなかったら、絶対優勝出来なかった。

一人の人間がそれ程、集団に大きな影響を及ぼすということを最後に申し上げて、話を終わります。

ご静聴有難うございました。（文責 小山）

### ●講師紹介

京都大学大学院工学研究科修士課程卒業。(株)スズキインターナショナル役員。(株)修英役員。(有)アクト代表取締役。関西学生アメリカンフットボール連盟理事。京都大学アメリカンフットボールチーム監督として、関西リーグ優勝（うち2回同率）10回、甲子園ボウル優勝6回、ライスボウル優勝4回。著書「一つのこと一流になれ」（毎日新聞社刊）「最初の一步、最後の一步」（タッチダウン社刊）



# パネルディスカッション



谷会員 本日は危機管理とリーダーシップについて話し合っ  
て参りましょう。

浮舟会員 リーダーとは多くの人々に影響を与える存在、  
RYLAはリーダーシップを学ぶ研修会です。本日はリスク  
マネジメントについて考えてみます。ではまず現在何に  
対してリスクを感じるかを伺いましょう。

ホンさん マレーシアではゴミを川に捨てることは日常茶  
飯事。それは環境汚染の末の恐さも分かっていないし、そ  
の対策についての情報も持っていないからという一例でも  
いえる様に「知らない」ことはリスクである。もう一つは、  
日本社会の中での我々外人は、常に例外ケースなので、門  
が狭く又、前例が少ない分、判断が難しいところにリスク  
を感じる。

エミさん オーストラリアでは山火事の問題や又世界レベ  
ルではオゾン層破壊等、比較的環境に対するリスクの意識  
は高い。又オーストラリアやドイツでは幼稚園の時からゴ  
ミの分別の意義等について教育している。

降矢さん 日本では、リスクの認識レベルが低い。それは  
リスクを示してくれるリーダーが少ないからで又それはリ  
スクに対して行動するボランティア等に評価が低いから、  
そういった事全部がリスクだと思う。

浮舟会員 バネラー以外の方のご意見もどうぞ

ネパール女子 若者世代のリスクとして、大学で学んだこ  
とを生かせる社会構造がない。

中国テンさん 中国では小学校がない地域もあり、その  
子供達は20kmを歩いて通っている。

エミさん オーストラリアでは優秀な人は理数系を学ぶ  
が、研究機関の就職がなく、結局役に立たないという矛盾  
したリスクがある。

ホンさん マレーシアでも理数系が盛んで、私も高校まで  
理数系を学んでいたが、国際貿易に興味を持ち始め、現在  
は日本の神戸商科大学で学んでいる。夢を持って頑張れる  
と思う。

浮舟会員 他国では学校に行きたくても行けない問題、一  
方日本では登校拒否や学級崩壊の問題、降矢さんはこの点  
どう思われますか。

降矢さん 一見豊かなアメリカでは小中学校に荒んだ事件  
も多く又、日本にも同様の現状がある。20km歩いても努  
力すればしたい勉強ができるならそれも豊かさである。本  
質的な日本の教育面での問題は、人間育成の為の活動等成  
績以外に対する評価が低い。会社側は学生生活の内容を重  
視しインターシップ制度を積極的に取り入れた方がよい。

浮舟会員 では今度は視点をかえて環境面におけるリス  
クを考えてみましょう。

日本女子 個人レベルの取りくみは見付けられている様  
で、見付けられていないのが実際の現状。

谷会員 オゾン層破壊問題が叫ばれる様になったのは、ア  
メリカのデュポン社がフロン<sup>1</sup>の代替商品を広く発表した頃  
からです。様々な社会問題には政治的側面があることを  
知ってリスクマネジメントを考えた方がよい。では食料・  
医療問題まで幅を広げてみましょう。

ホンさん 薬も病気を治してくれますが、知識は病気の蔓  
延を防ぐ、やはり知る事が大切。

浮舟会員 世界の問題はそれぞれの国の地域の個人の問  
題。自由競争の世界におけるリーダーには救済の義務と責  
任が供う。では最後にリーダーシップについて伺います。

降矢さん リーダーは解決の一部の人間として意識を高  
め、中立・曖昧ではなく強い意志で決断していくべきだ。

エミさん 自分一人では意味がないと思わず、大きな力は  
小さな力の集合だと常に思うべき。

浮舟会員 23ヶ国の留学生が集合して21世紀のリーダー  
に課せられた問題を話し合う素晴らしいチャンスのRYLA  
を是非有効なものにして下さい。

谷会員 今、時を同じくしてコソボ難民が、又報道さえさ  
れていない苦しんでる人々が多く居ることを念頭にリー  
ダーがどうあるべきか是非有効な話し合いをして下さい。



# グループワーキング

## 第1班

我々一班はだれにでも起こりそうな家庭内における危機管理とリーダーシップについて考えてみました。そのため我々の班では「けんちゃんのお母さんが倒れちゃったらどうしよう」の巻を紙芝居風にして発表しました。けんちゃんのお母さんが、車にはねられて入院。けんちゃんの家ではお父さんがリーダーシップを発揮して家族会議を開きお母さんの一大事に皆で力を合わせて頑張ろうと言うことでそれぞれ兄弟仲良く家事の分担も決め頑張った後、お母さんの具合も次第によりなりました。めでたしと云うストーリーです。けんちゃんのところではお父さんがリーダーシップを発揮してうまくいった例と言えますが、そのような状況になった時、我々10代20代では父のように年の功もないし母のような経験も積んでいないので我々としては、まず状況判断の出来る人間になろう、判断力を身につけようと考えました。何事につけても他人でなくもっと自分のこととして考える、だれかがやるのではなく自ら率先して行動するよう小さなことから頑張ろう。パネルディスカッションの時危機管理が出来ていない日本ということが盛んにいわれていたが、まず自分が自ら率先してやる心が我々若者に求められている重要な事ではないかと考えました。



## 第2班

危機管理のテーマを前に皆で話し合いをしました。環境問題などの言葉は知っていてもその深刻な問題の重大さについてはよく解らなかった。環境問題といってもゴミ問題、オゾン層の破壊、海洋汚染、酸性雨、食糧危機、人口増加、政治問題、などさまざまな問題があげられるが、皆で話し合いが進むまで言葉だけで終わっていた。それぞれ一人一人が「問題だ」と言うことは知っていたが深く突っ込んで、それぞれのことがどういう理由でそうなったのか理解している者はいなかった。私たちの班はこのライラへの参加をきっかけに他の班の皆がしゃべっていることを理解したうえで自己認識の向上で、小さなことから始めゴミ問題では、ゴミを減らし、リサイクルの活用をはかる、資源の問題では水、ガス、電気、など使用を控え小さなことからそれぞれ始めたいと言う結論になりました。





## 第3班

リーダーシップに対する考え方は、国によって異なるのでそれぞれの国からの参加者が発表しました。

(日本)

海に囲まれた島国で、鎖国にもみられるように、保守的な考え方を抱きがちと思われている。しかし保守的な分、国内の平和を保とうとする強い傾向がある。その特徴を顕わす例として学校教育を取り上げて見ると、どちらかといえば生徒の個性を尊重するというよりも、むしろ一つにまとめようとしがちである。そういった教育を受けてきた今の私たちの心の中には、人と違うことを怖れたり、悪く思うといった意識が潜在的に存在している。だから、私たち日本人にはリーダーシップ感が欠けているのが現状である。

(台湾)

台湾は中国との間に軍事上の問題があり、常に緊張している。戦争が起こりそうな時には素早い判断が求められる。リーダーは複数の意見から素早く意見を選ぶことが必要。日本のリーダーシップと違うのは時間をとって複数の意見をまとめることではなく瞬間的に意見を選ぶことである。私は終わったばかりだが、国民はみんな軍事訓練を受けており、台湾人はリーダーシップについてこのように考えている。

(マレーシア)

マレーシアは、インド系、中国系、マレー系からなっている。各国との戦争や貿易でいろんな人種が混じたためである。インド系はヒンズー教、中国系は仏教、マレー系はイスラム教を信じている。このように住んでいる人種が全く違うため意見が違う。リーダーは3つの意見の中から時には1つ、時には2つ選ぶことが求められる。



(中国)

中国でリーダーシップと言えば政治は中央の共産党を中心として、他の政党が従っている。文化の基本として儒教は上の人の言うことに従う考えがあるため学校でもこの考え方が教育の中心に取り入れられている。現在は民主主義の考え方も増えている、中国も少しずつ変化しているが。

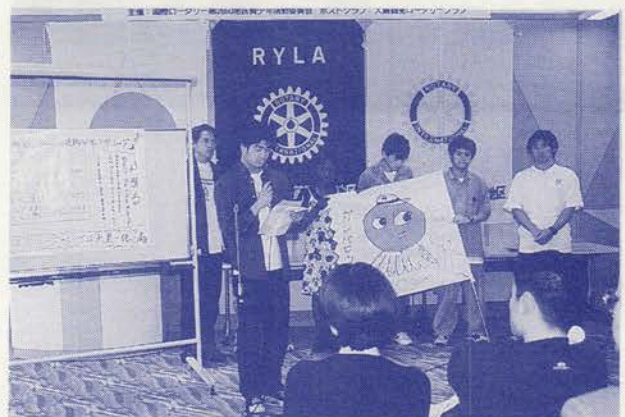
(結論)

結論として、各々の国のリーダーシップに対する意識は異なる。日本は「いくつかの意見をまとめる意識」、台湾、マレーシアは「いくつかの意見の中から選択する意識」。中国は「リーダーによる絶対的な意識」。各々の国で、考えや文化は異なるが、お互いの良いところを取り入れ、今後リーダーシップの意識を高めて危機に遭遇すれば対処したいと思う。

## 第4班

「21世紀に向けての危機管理とリーダーシップ」をテーマに話し合い、21世紀のリーダーシップはどうあるべきかを追求した。

仲間には4人の留学生がいて、さまざまな意見が出た。例えば1日目のパネルディスカッションにもあったが、大学をでて就職先がない、つきたい職業につけない、会社の中でも自分をどう発揮すべきかなどである。これは留学生からの指摘だが、アジアの中の日本、世界の中の日本は経済力はあるが、アメリカやヨーロッパに比べて政治力が薄い、これからどうリーダーシップを発揮すべきか、など熱いトークが展開された。そして危機管理とリーダーシップは表裏一体のもの、一緒のものではないかとまとまった。以下はその討議の結論である。





「リーダーシップとは各個人が自発的に自らを引っ張り、自らをリードして行くもの、そしてそのことが他の個人にも影響を及ぼすものではないか、その力こそがリーダーシップなのではないか」

自らを引っ張っていければ危機管理はクリアできる、自らの意志があればどんなことにも対応できるというのが4班としてまとめた意見である。また参加者が自らの国の言葉でポスター上にスローガンを書き、21世紀にリーダーシップを発揮することを誓い合ったことを特記したい。

## 第5班

地球規模の危機ということで、環境破壊特にごみ問題について考えました。

北欧特にフィンランドではごみは次の10種類に分けて分別回収されています。

1. 紙
2. 電池
3. ガラス
4. プラスチック
5. 生ごみ
6. 缶類
7. 繊維
8. 特殊容器
9. ビン類
10. ダンボール

日本ではようやく分別回収が始まりつつある段階です。この問題は一人一人がリーダーとなって取り組んでいかねばなりません。御出席の皆さん、どうか各家庭でごみの分別回収、再利用に取り組んでください。



## 第6班

危機管理とリーダーシップというテーマは、あまりに大きく漠としているので、それを理解する為に下記の様に分類しました。

●現状把握（私達を取り巻く危機）と  
具体的リスク（要因と結果）

### 地域レベル

人口増加→利便性の追求→生態系の崩壊  
環境破壊への無関心→事態の悪化、進行

### 社会レベル

教育問題→お受験→マニュアル人間

### 高齢化社会

過保護→キレる

### 個人レベル

就職・失業→就職活動→転職・離職（高卒、あまり深く考えずに→転職・離職多い）

### 恋愛

解決のために→AIDMAの法則にのっとり危機管理に取り込む。

Attention（興味を持つ）

Interest（なぜそうなるか考える）

Desire（どうしたいのか）

Memory（自分の中で意識していく）

Action（いざという時行動を起こす）





## 第7班

マレーシア、フィリピン、中国、日本といった複数の国々の目で、危機管理をリーダーシップによって達成しようという観点から、検討したところを報告する。

リーダーは、「非政府機関」(ボーイスカウト、YMCA、RCなど)、「メディア」(TV、新聞、internetなど)、「教育機関」といった伝達手段を通じて、一般常識や教育が十分ではない人たちに、その情報を伝えることになる。

ここで情報の受け手と推定されているのは、一般常識や教育の修得が十分ではない

「men; careerwomen」

「housewives; housekeepers」

「children」

「youth」

といった4つのグループである。

それぞれの伝達機関は、それぞれのやり方で、一般常識や教育を伝達し、それによって、リーダーシップを養成しようとする。もっとも、これだけですべてうまくいくとは限らないが、少なくとも、リーダーシップの養成や危機管理に役立つことは間違いないであろう。



## 第8班

リーダーシップに必要なのは問題を知ることである。このグループには4カ国の仲間がいるので各国の教育制度を比較し、その危機について話しあった。

1) タンザニアでは、経済的な問題から大学への進学率は10パーセント程度であるうえ、優秀な人材が、海外で高等教育を受けたまま、海外で就職をすることが多く、母国に戻ってこないということが最大の問題点である。

2) マレーシアでは、高等教育を受けた後、母国に戻って来ないが、海外で受けた高等教育の成果を母国での教育に携わって役立てようとはしないことが問題といえる。これは多民族国家であることが影響しているかもしれない。

3) アメリカでは、犯罪と根強い人種主義が問題として指摘できる。また州によって環境が違い、銃規制も守られていない。

4) 日本 (時間の都合で省略)

いずれにせよ、殆どの「危機」というものは教育によって回避できる。そして、教育によって得られる「知ること」こそ、危機管理とリーダーシップのもっとも大切な根源であると考えられる。





## 第9班

第9班は総勢11名の内、留学生が4名いて、「危機」と一言で云っても国情や立場によって様々であった。ちなみに我々の班では、通貨問題（ブラジル）、人口増加問題（日本）、経済問題（ミクロネシア）、食糧問題（日本）、労働問題（ネパール）、高齢社会問題（日本）などが挙げられ、具体的な危機管理とリーダーシップとの関係について討議することは出来なかった。

そこで私達は、リーダーシップの備えるべき資質について検討し、以下のようにまとめた。

- 1) 指導すべき事象に関し、十分な知識を持っていること
- 2) 他人の意見に耳を傾ける度量があること
- 3) 協調性とバランス感覚をもっていること
- 4) 人を説得し従わせる能力のあること

危機に際しては、これらの資質を兼ね備えた人物が、自分がリーダーの立場にあることを自覚して、積極的に周囲に働きかけることによって、解決の糸口を発見できると考える。



## 第10班

私達は、リーダーの資格とは何かと云うことについて討議し、以下のような結論を得た。

### 1) 明朗活発な人

\*どんな状況下にあっても平常心を失わず、明朗活発に振舞えること

\*リーダーであることを楽しむこと

\*自分の下した決断に対して責任を負うことのできる人

### 2) 他人の能力を引き出し十分に活用できる人

\*トラブルを解決する能力があること

\*説得力のあること

\*適材適所に人を配置できること

### 3) 方向性を提示できる人

\*収集された情報を客観的に分析し、指針を示せること

リーダーとは以上のような資質を備え、有事に際しては、命令系統の中核にいて全体を把握する立場にあるべきで、陣頭指揮をとる人間ではない。肉体を例にとれば、リーダーとは、情報を収集する目や耳でもなければ実際に行動する手足でもなく、大脳の役割を果たす人である。





# 閉講式

## Closing Ceremony

### ●講評

地区青少年活動委員会 委員長 有賀一夫



2泊3日お疲れ様でございました。

今年はあまり天候には恵まれず、心配いたしましたが無事全日程を過ごすことが出来ました。

この3日間を振り返ってみますと、研修生の皆さん一人一人いろいろな思いを持っておられると思います。

どれだけ皆さん方自身が“世界の若者と考えよう！キミの危機管理とリーダーシップ”のテーマの趣旨を理解したか、またここ海洋センターの海と自然に目を向けられたか、思い返していただきたい。3日間で学ばれた、危機管理、危機に遭遇した場合にどのようにリーダーシップを発揮していけるか。これからの皆さんの生活に生かして下さい。

私はボランティア・リーダーによく話しをするのですが、“あなた自身を大切にするように隣人を大切にしてほしい”。ライラ研修を終えて帰られる皆様にも同じことを申し上げたい。あなた自身の周りの隣人、会社、学校の仲間を、自分を大切にするように、皆さんの周りを大切にしていきたい。ロータリーが考えていること、ロータリーが皆さんに託している夢を、その心、その学びを実践していただきたい。

今回のライラ実施にあたっては大阪鶴見ロータリークラブの皆さん方が、1年以上前から時間を割いて準備をされ

てきました。本当に大変だったと思います。感謝致しております。ありがとうございました。又海洋センター所長初め、リーダーの皆さん、スタッフの皆様方に厚くお礼を申し上げます。

上級ライラ修了生の皆さんも御苦勞様でございました。厚く御礼申し上げます。

以上をもちまして閉講式の講評といたします。

### ●閉講の挨拶

インカミングガバナー 柏木 尚



閉講のご挨拶を申し上げます。

皆様ご苦勞さまでした。2泊3日の当2660地区の青少年奉仕委員会の年間プログラムとして、特に大阪鶴見ロータリークラブをホストとして開講され、本日無事に閉講式に漕ぎつきました。地区の青少年奉仕活動の中でも、このライラ養成講座は、重要なプログラムの一つです。長い時間と奉仕の労力をかけて、21世紀を担う健全な青少年の育成にご奉仕いただいた方々に敬意と感謝を申し上げます。

今回は若干天候に左右され、心配もしましたが、有賀委員長が言われたように、むしろよい経験・体験ができたのではないかと考えています。人間の力では、どうすることもできない自然の力の一部を見たのではないのでしょうか。又後程修了証書をお渡しいたしますが受講された皆様は、チームワークの大切さや、リーダーシップの体験学習に



なったばかりでなく、よいお友達もできたのではないかと  
思っています。

このプログラムを企画・実施にあたって、大阪鶴見ロー  
タリークラブをホストとして各クラブのご協力にあらため  
まして感謝申し上げます。今回は「世界の若者と考えよ  
う！キミの危機管理とリーダーシップ」というテーマに  
そって、受講者の班で活発な討論があり、その結果を班毎  
に発表され、又テーマにそった講演も聴くことができ、有  
意義なものとなりました。そして忘れてはならないこと  
は、大阪府立青少年海洋センターの所長さんを始め、ス  
タッフの皆様にご専門の立場から、いろいろご指導とご  
協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます、閉講の  
ことばといたします。ありがとうございました。

### ●閉会の辞

ライラ実行委員長 佐藤俊一



1998～99年度春のライラを終了するにあたり、まず最  
初に第2660地区青少年活動委員会、青少年海洋センター、  
ライラスタッフ、登録していただいたロータリアンの皆様  
に、大阪鶴見ロータリークラブを代表して、心より御礼申  
し上げます。

ふり返りますれば、春のライラ実行にあたり、1年以上  
も前より準備してきましたが、実際、外よりながめていた  
のと、体験するのとは大違いであったことが実感であり  
ます。今はなんとかやり終えたという達成感と色々な反  
省点を共有している心境です。

もしもう一度行う時はもっとうまくやれるかも知れませ  
んが、この出会いは一度きりのものです。「一期一会」と  
いう言葉があるように、この出会いを大切にしていきたい  
と、最初のオリエンテーションの時に青少年達に申してお

りました。果たしていかがでしょうか？

この3日間の天候は中日が雨にたたられ、いくつかのプ  
ログラムの変更を余儀なくされました。今年度のテーマで  
ある「危機管理」という立場にたてば、最悪の状況をあら  
かじめ予想しておくということで、我々も大いに勉強にな  
りました。

ところでこの3日間を通じて、ライラの本質とは何なの  
かと私は考え続けておりました。それは「次世代への継承」  
ということなのかか思っておりました。話は飛びますが、  
今は亡き黒沢明監督の映画のいくつか（「赤ひげ」「椿  
三十郎」など）は主人公の生き方、考え方など若い世代に  
継承するというテーマにつらぬかれているようです。これ  
は人類の歴史の永遠のテーマかもしれません。

このことはライラにも共通することですが、この3日間  
ではあまりに時間が短い気がします、参加青少年は我々  
の世代の気持ちだけでも察して、心の片隅においていた  
ければ幸いです。我々の想いの足らざるところを次回のラ  
イラなどに挑戦していただくことを期待して、ライラ閉会  
の辞とさせていただきます。

ありがとうございました。





## 閉講式次第

司 会 武市智寿

- |                                  |                       |       |
|----------------------------------|-----------------------|-------|
| ●開会点鐘                            | 大阪鶴見ロータリークラブ会長        | 村瀬景三  |
| ●挨拶と修了証書授与                       | インカミングガバナー            | 柏木 尚  |
| ●上級ライラ受講者挨拶                      | 受講者                   | 木口光太郎 |
| ●講評及び表彰                          | 地区青少年活動委員会委員長         | 有賀一夫  |
| ●ライラ旗の引継 次期ライラホストクラブ交野ロータリークラブ会長 | 石田俊夫                  |       |
| ●閉会の辞                            | 大阪鶴見ロータリークラブRYLA実行委員長 | 佐藤俊一  |
| ●ロータリーソング 「手に手つないで」              | ソングリーダー               | 松岡茂雄  |
| ●閉会点鐘                            | 大阪鶴見ロータリークラブ会長        | 村瀬景三  |

## ●春のライラ実行委員会組織

\*印は班長

理事会・会長

佐藤実行委員長

水間実行委員長補佐

田中実行副委員長

総務 \*清水 阿部 松岡 水間 佐藤 須田 田中 樋口(事務局)

記録 \*小山 岩倉 松岡 中村(善) 竹内 樋口(事務局)

財務 \*広瀬 高橋 内田(吉)

登録・受付 \*中村(浩)

ロータリアン 石川 岩本

青少年 留学生 ローターアクト 賀屋 織田 光山 田澤

会場・案内係 \*長谷川 広瀬 北田 竹内 武内 宇野 矢尾

救護班 \*音在 井上 平林 中村(善)

宿泊 \*水間 賀屋 小堀 元屋 高橋

須田実行副委員長

開会・閉会式典・朝の集い \*武市 石川 松岡 村瀬 岡田 佐藤 清水 須田

接待 \*阿部 小堀 村瀬 水間 岡田 須田

プログラム \*宇野

記念講演・パネルディスカッション \*谷 清水 武内 浮舟

班旗製作 \*宇野 石川 中嶋

Cutter \*織田 菊井 中嶋 光山 宇野

野外活動(サンドアート) \*石川 岩本 北田 中村(浩) 谷

バーベキュー \*西野 中村(浩) 山田

討論会 \*菊井 佐藤 清水

救助法 \*矢尾 井上 元屋 音在(小林)

食事・入浴・懇話会 \*林 広瀬 西野 山田

ライラスタッフ \*石川 金子 国分 村木 山野

上級ライラ出向者： 平林 中村(善) 田中 田澤



# 青少年参加登録者名簿

班別	記号	氏名	性別	国籍	推薦クラブ
1	Y E	Shown Newman	M	アメリカ	高槻西
1		Kenichi nishikawa	M	メキシコ	大阪鶴見
1		王 瓊慧 (オウ カケイ)	W	台湾	大阪鶴見
1		福本 涼子	W		大阪鶴見
1	R A	山本 美里	W		大阪中央
1		滝本 友紀	W		大阪咲洲
1		吉田 こずえ	W		大阪東淀
1	R X	溝畑 亜紀子	W		東大阪東
1		福原 益男	M		寝屋川
1		広畑 健太郎	M		大阪住吉
1	R A	米澤 揚雄	M		吹田
2	Y E	Halase Gergely	M	ハンガリー	枚方くずは
2		Verdi Zambrano	M	エクアドル	大阪鶴見
2		金 真希 (キム チンヒ)	W	韓国	大阪鶴見
2		チン ニイ	W	中国	大阪鶴見
2		寺島 京子	W		西北
2		ザルディ	M	フィリピン	大阪鶴見
2		マイケル	M	香港	大阪鶴見
2		宮里 千恵	W		大阪鶴見
2		中野 智香子	W		大阪東淀
2		津江 元子	W		大阪南西
2	R A	田中 保幸	M		茨木
3		謝 道弘 (シャドウコウ)	M	台湾	大阪鶴見
3		李 春蓉 (リ ションヨウ)	W	中国	大阪鶴見
3		Rozita Zakaria	W	マレーシア	大阪鶴見
3	R A	滝 悦子	W		大阪西南
3	R A	福島 伸子	W		大阪中央
3		山下 正子	W		大阪鶴見
3	R A	益田 美弘	M		大阪中央
3		参上 健二	M		東大阪東
3	R A	伊藤 直樹	M		大阪北
3	R A	松永 健司	M		大阪
4		Stefan Brysch	M	ドイツ	東大阪東
4		アニン	M	インドネシア	大阪鶴見
4		ディマス	M	インドネシア	大阪鶴見
4		カディオ アヒニナ	W	コートジボアール	大阪鶴見
4		松木 仁美	W		茨木
4		溝畑 悠希子	W		東大阪東
4		大麻 衛	M		大阪心斎橋
4	R A	大西 征典	M		大阪心斎橋
4	R A	三好 修司	M		大阪西南
5	Y E	Koski Lauri	M	フィンランド	茨木
5		ディブ	M	インドネシア	大阪鶴見
5		ハリユン	W	モンゴル	大阪鶴見
5	R A	森崎 智恵	W		大阪北
5		中山 理恵	W		東大阪東
5	R A	岡本 和恵	W		大阪本町
5		千葉 晋士	M		大阪本町
5	R X	下園 大介	M		高槻西
5		瀬川 征之	M		枚方
5	R A	前田 剛史	M		大阪天満橋
6	Y E	Edovard Van Bell	M	ベルギー	大阪西北
6		Teera Sak	M	タイ	大阪鶴見
6		トウ テンユウ	M	中国	大阪鶴見

班別	記号	氏名	性別	国籍	推薦クラブ
6		岡田 悠子	W		大阪西北
6		中浜 由美子	W		大阪本町
6	R A	丹羽 綾子	W		大阪北
6	R X	久保 絢子	W		高槻西
6		福本 大介	M		大阪中央
6		寺島 純司	M		大阪西北
6		中 和行	M		枚方くずは
6	R A	藤岡 大	M		大阪天満橋
7		姜 凱 (ジャン ガイ)	M	中国	大阪鶴見
7		Fong Cheng Meau	M	マレーシア	大阪鶴見
7		アリセ アベゲイル アセロ	W	フィリピン	大阪中央
7	R A	藪田 美紀子	W		大阪住吉
7	R A	茨木 郁恵	W		大阪中央
7		大石 由美子	W		寝屋川
7		飯野 和子	W		大阪天満橋
7		福本 隆一	M		大阪本町
7		松田 匡介	M		吹田西
7	R X	奥野 克巳	M		大阪うつば
8	Y E	Jahon Brindley	M	アメリカ	大阪天満橋
8		アズマニ メハド ジュマ	M	タンザニア	大阪鶴見
8		トゥーン	M	マレーシア	大阪鶴見
8	R X	米光 智子	W		大阪鶴見
8		向井 淳子	W		大阪鶴見
8		川村 有美	W		大阪北
8		鐘田 尚美	W		枚方
8	R A	夏山 真由美	W		大阪天満橋
8	R A	植松 みどり	W		大阪中央
8	R A	西口 英利	M		大阪中央
8		降矢 直人	M		豊中
9	Y E	Palhares Melo Malcela	W	ブラジル	大阪東南
9		バンダナ ブザール	W	ネパール	大阪鶴見
9		ディヴ イト マングレイ	M	ミクロネシア	大阪鶴見
9		潮崎 真世	M		大阪鶴見
9		窪田 幸子	M		東大阪東
9	R X	古谷 吉康	M		吹田西
9		杉山 佳央	M		吹田西
9		藤井 調広	M		茨木東
9	R A	石川 弘太郎	M		守口
9	Y E	ガブル ハンター	M		寝屋川
9		ガルソン	M	ミクロネシア	大阪鶴見
10		Emy Bargman	W	オーストラリア	大阪鶴見
10		林 子楠 (リン ツナン)	W	台湾	大阪鶴見
10		肖 惠郡 (ショウケイグン)	W	中国	大阪鶴見
10		坂本 絵美	W		大阪鶴見
10		長友 さやか	W		茨木東
10	R A	鳥居 あすみ	W		大阪北
10	R A	橋本 匡史	M		大阪中央
10		山下 博司	M		吹田西
10	R A	竹嶋 修一郎	M		守口
10		亀井 昭人	M		大阪東淀
10	R A	北川 吉博	M		大阪西南
10		ニフン カロリン	W	インドネシア	大阪鶴見
		三好 尚美	W		大阪本町
		澤野 喜恵子	W		大阪本町

R A : ローターアクト R X : ローテックス Y E : 青少年交換留学生



# 春のライラ クラブ別参加登録一覧

クラブ名	青少年	ロータリオン	合計	クラブ名	青少年	ロータリオン	合計	クラブ名	青少年	ロータリオン	合計
大 東	0	2	2	大 阪 平 野	0	0	0	大 阪 天 満 橋	5	6	11
大 東 中 央	0	2	2	大 阪 本 町	6	1	7	大 阪 天 王 寺	0	1	1
東 大 阪	0	3	3	大 阪 イ ブ ニ ン グ	0	9	9	大 阪 東 南	1	2	3
東 大 阪 中 央	1	1	2	大 阪 城	0	0	0	大 阪 鶴 見	35	48	83
東 大 阪 東	5	5	10	大 阪 城 南	0	3	3	大 阪 梅 田	0	1	1
東 大 阪 み ど り	0	1	1	大 阪 城 東	0	12	12	大 阪 梅 田 東	0	0	0
東 大 阪 西	0	0	0	大 阪 柏 原	0	0	0	大 阪 う つ ぼ	1	3	4
枚 方	2	2	4	大 阪 北	5	2	7	大 阪 淀 川	0	0	0
枚 方 く ず は	3	2	5	大 阪 北 梅 田	0	2	2	千 里	0	0	0
茨 木	3	2	5	大 阪 北 淀	0	2	2	千 里 メ イ ブ ル	0	0	0
茨 木 東	2	0	2	大 阪 御 堂 筋	0	2	2	摂 津	0	2	2
茨 木 西	0	6	6	大 阪 南	0	15	15	四 條 畷	0	3	3
池 田	0	4	4	大 阪 リ バ ー サ イ ド	0	5	5	吹 田	1	2	3
池 田 く れ は	0	0	0	大 阪 中 之 島	0	5	5	吹 田 江 坂	0	1	1
門 真	0	0	0	大 阪 難 波	1	1	2	吹 田 西	4	1	5
交 野	0	22	22	大 阪 な に わ	0	0	0	高 槻	0	0	0
箕 面	0	0	0	大 阪 南 西	1	3	4	高 槻 東	0	2	2
箕 面 中 央	0	3	3	大 阪 西	0	1	1	高 槻 西	3	23	26
守 口	2	1	3	大 阪 大 手 前	0	15	15	豊 中	1	2	3
寝 屋 川	3	3	6	大 阪 大 淀	0	0	0	豊 中 南	0	0	0
寝 屋 川 東	0	3	3	大 阪 咲 洲	1	4	5	豊 中 - 大 阪 国 際 空 港	1	0	1
大 阪	3	4	7	大 阪 西 北	6	0	6	豊 中 千 里	0	0	0
大 阪 阿 倍 野	0	3	3	大 阪 西 南	3	1	4	八 尾	0	0	0
大 阪 ち ゃ や ま ち	0	1	1	大 阪 船 場	0	2	2	八 尾 中 央	0	5	5
大 阪 中 央	12	37	49	大 阪 心 斎 橋	2	2	4	八 尾 東	0	0	0
大 阪 堂 島	0	2	2	大 阪 城 北	0	5	5				
大 阪 阪 南	0	1	1	大 阪 そ ね ざ き	0	34	34				
大 阪 東	0	5	5	大 阪 住 之 江	0	3	3				
大 阪 東 淀	3	4	7	大 阪 住 吉	2	2	4	小 計	52	102	154
小 計	39	119	158	小 計	27	131	158	合 計	118	352	470

青少年登録者 118名 (男56名 女62名)      ロータリオン登録者 352名  
 参加者 106名 (男57名 女49名)              参加者 95名  
 欠席者 12名 (男 3名 女 9名)

：上級申込みクラブ 大阪北1 東大阪西2 平野1 豊中1 国際1 吹田1 住吉2



# 春のライラ上級セミナープログラム

	第1日〔5月3日(月)〕	第2日〔5月4日(火)〕	第3日〔5月5日(水)〕
6:00		起床 (6:00)	起床 (6:00)
7:00		朝の集い 初級ライラと合流 (7:15~8:00)	朝の集い ロータリーについて 講師 地区青少年活動委員長 (7:15~8:00) 有賀 一夫
8:00		朝食(自炊) (8:00~8:45)	朝食(自炊) (8:00~8:45)
9:00	受付 府立海洋センター入口	カッター帆走 (役割に応じて作業分担、ウォッチ・シート持ち、オール漕ぎ等) (9:30~12:00)	全体のふりかえり 講評 チームワークトレーニング の仕上げ(レポート) (8:45~9:30)  さよならパーティーの料理作りとパーティー (9:30~12:00)
10:00	クルージング(明石大橋) (9:30~		
11:00	(帆走、操舵実習)		
12:00	昼食(淡路島岩屋港にて)		
13:00	クルージング(帰港)	カッター帆走 (13:00~16:00)	閉講式 (12:00~12:30)
14:00			初級閉講式に参席 (13:00~ )
15:00			解散 (14:00)
16:00	開講式(研修棟) (16:00~ ) 今日のふりかえり(16:30~ )	着艇・改装	
17:00	魚釣り等 夕食(自炊)	夕食(自炊)	
18:00			
19:00	帆走理論(ロープワーク・カッター帆走)明日への動機づけ (19:00~20:00)		
20:00	ゼミ1 リーダーシップについて 講師 海洋センター企画業務課 主事 坂谷 恵司 氏 (20:00~21:30)	今日のふりかえり ゼミ2 青少年活動について 講師 海洋センター企画業務課長 森 正司 氏 (20:00~21:30)	
21:00	懇親会 ロータリアンと共に (テーマ;ゼミ1をふまえて) (21:30~22:30)	懇親会 ロータリアンと共に (テーマ;私のリーダーシップ発揮) (21:30~22:30)	
22:00	消灯(22:30)	消灯(22:30)	



# 上級ライラ 参加登録者名簿

## (ロータリアン参加者)

推薦RC	No.	氏名	勤務先	TEL
大阪咲洲	1	有賀 一夫	新生鋼業(株)	06-6685-4336 090-328-24336
大阪住吉	2	板垣 美一	(株)板垣建築事務所	06-6633-7535 090-3710-0304
大阪鶴見	3	田中 信明	(株)アイ・エー・オー・田中設計	06-6364-7386 090-1586-6777
大阪鶴見	4	平林 昇	平林歯科診療所	06-6353-0887
大阪鶴見	5	中村 善尚	(医)中村医院	06-6912-5824
大阪鶴見	6	田澤 洋一	(株)ダスキン田澤	06-6302-0005 090-3710-2382
交野	7	木戸 正	(株)大阪設備設計 代表取締役	0720-92-8883 090-3286-5219
交野	8	木下 久則	木下犬猫診療所 院長	0720-91-5424
交野	9	田中 有	ローバル(株) 代表取締役	090-3620-02040

## (青年参加者・他)

推薦RC	No.	氏名	性別	住所	TEL	勤務先	勤務先TEL
吹田	1	井上 理絵	女	666-0111 川西市大和東1-100-6	0727-90-3038	(株)エムシーメイツ大阪	
豊中大阪 国際空港	2	森岡 豊	男	558-0003 大阪市住吉区長居4-4-10	06-6694-2685		
豊中	3	木口光太郎	男	558-0011 大阪市住吉区苅田5-8-2-402	06-6697-7377	N T T 北大阪支店	0727-30-6281
大阪平野	4	山本 浩	男	546-0033 大阪市東住吉区南田辺4-6-28	06-6699-7955	(株)小林新聞舗	06-6709-0022
大阪住吉	5	三嶋 浩司	男	584-0031 富田林市寿町1-2-15	0721-26-0220		
東大阪西	6	荒鹿 高行	男	636-0941 奈良県生駒郡平群町緑ヶ丘4-1-9	0745-45-5852	神戸大学	
東大阪西	7	橋本 宗隆	男	635-0103 奈良県高市郡高取町清水谷44-1	0744-52-2954	関西学院大学	
大阪北	8	石田 涉	男	579-8014 東大阪市中石切町2-3-22	0729-84-2439	大阪工業大学	
大阪住吉	9	紺谷 公二	男	597-0082 貝塚市石才76-4	0724-31-5389	堺東社会保険事務所	0722-38-5101

## 大阪府立海洋センター研修生

	1	津田 典子	女				
	2	小堀 裕美	女				

## 大阪府立海洋センター職員

	1	森 正司	男	企画業務課 課長			0724-94-1811
	2	坂谷 恵司	男	企画業務課 主事			



# 上級ライラ

## ●第4回 上級ライラ開講式次第

於会議室

平成11年5月3日20:00～20:30

司会 地区委員 田中信明

開会点鐘

大阪鶴見ロータリークラブ会長 村瀬景三

国家斉唱 君が代

ロータリーソング R-O-T-A-R-Y

開会の辞

上級ライラ実行委員長 板垣美一

歓迎の辞

大阪鶴見ロータリークラブ会長 村瀬景三

来賓、上級ライラ関係者紹介

(挨拶にかえる)

地区青少年活動委員会委員長 有賀一夫

地区青少年活動委員会委員 北山孝和

大阪府立青少年海洋センター所長 片岡弘尚

閉会点鐘

大阪鶴見ロータリークラブ会長 村瀬景三

## ●第4回 上級ライラ報告

地区青少年活動委員会委員長 有賀一夫 (大阪咲洲)

上級ライラ実行委員長 板垣美一 (大阪住吉)

ホストクラブ地区委員 田中信明 (大阪鶴見)

第4回 上級ライラは、初級ライラと同時期に府立海洋センターを基地として実施された。初めての海の上級ライラであり、参加者は多数と思われたが登録者は11名に止まった。思いもかけない悪天候に見舞われ船酔いで2名の脱落者を出したが残り9名は無事、実施研修を修了した。

プログラムは下記の通りでした。

**1999年5月3日(月)** 小雨 午後より強風

9:00 受付登録

9:30 クルージング：白鳥号で帆走操船実習(明石大橋でUターン)

昼食：淡路島 岩屋港へ上陸して

13:30 出港、一路海洋センターへ

17:40 帰港入浴、夕食作り：自炊







- 20:00 開講式
- 20:30 ゼミ1:リーダーシップについて (講師 海洋センター企画業務課主事 坂谷恵司氏)
- 21:30 懇談会:「ロータリアンと共に」
- 23:00 就寝

**1999年5月4日(火) 小雨**

- 7:15 朝のつどい:初級ライラと共に
- 8:00 朝食
- 9:30 9mカッター:帆走実習等
- 12:30 帰港、入浴
- 13:00 昼食 (以降タマゴパフォーマンスの思考時間)
- 15:00 タマゴパフォーマンス (3チームに別れて3階よりタマゴを落下させ、割れない様に落とす、工夫、ネーミング、優雅さ等を競う)
- 16:00 リーダーシップ研修:ゲームを中心に
- 17:30 入浴、休憩
- 19:00 夕食 :海風館レストランにて
- 20:00 ゼミ2:青少年活動について (講師 海洋センター企画業務課長 森 正司氏)
- 21:30 懇親会
- 22:30 就寝

**1999年5月5日(水) 晴れ**

- 7:15 ロータリーについて
- 講師 地区青少年活動委員長 有賀一夫
- 8:00 朝食
- 8:30 さよならパーティーの料理作りの下準備
- 9:30 全体をふりかえり:受講生の発表
- 10:00 さよならパーティー料理作り (うどん作り)
- 11:30 さよならパーティー:柏木インカミングガバナーを迎えて
- 12:00 実施研修閉講式
- 13:00 初級ライラ閉講式参席 (上級ライラ参加者 木口光太郎氏の発表)
- 14:00 解散

悪天候交じりの3日間ではあったが初めての海の上級ライラを無事終えてホッとしている。参加者全員の上級ライラ全課程修了を期待すると共にホスト役を務めて下さった大阪鶴見ロータリークラブの皆様、上級ライラ担当のロータリアン、海洋センターの片岡所長をはじめ森課長、坂谷主事その他職員の皆様様に厚く御礼申し上げます。

以下にクルージング記と、参加者木口光太郎氏の参加報告を掲載します。



## ●クルージング体験記

田中信明

5月3日(月)

9:30 出港準備開始が少し遅れ、白鳥号は10:00頃海洋センターを出港した。

乗船人員は研修生11人中10人(1人遅刻)・ロータリアン8名・センター2名の20名である。出港後湾内をぬけると、帆を張って明石大橋に向かう。片道約21マイルの旅である。研修生を2班に分け交互に操船させる。帆とエンジン両用及び帆のみのセーリング実習を行なう。風は南西の風、風速8m~10mセーリングに最適な状態であった。コーヒーを飲んだり、トローリングをしたり、本当に快走を続けて、あっという間に目的地に到着した。明石大橋の真下で方向を転換し岩屋港に向かう。この頃から少し風が強くなってきた。

午後1時前に岩屋港で上陸し、昼食(弁当)を小公園で食べる。夕食の材料にと小鯛を買った。

13:30頃岩屋港を出港し帰路につく。風はますます強まってくる。

1時間位で波が高くなり風が強くなって帆を降ろしてエンジン操行に切り替える。しかし白鳥号はなかなかスピードが出ない。

15:30頃になると風速18m~20mとなり、波も高くなり台風のような荒れ方である。白鳥号は木の葉のようにゆれ、波しぶきは全身をずぶぬれにする、それでもセンターの坂谷さんは操船を研修生にまかせる。ロータリアンはほとんどゲロゲロ状態で、不安そうな顔である。研修生も必死で舵を握っている、大きな波が来るたびに右に切って、すぐ左へと大声で怒鳴っている。船は遅々として進まない。時速3~4ノットである。本部との連絡も携帯電話がなかなか繋がらない、やっと連絡がとれて入港は17:30頃になる旨を伝える。

17:40頃やっと海洋センターに到着し、ロータリアンは放心状態で下船、研修生は立派である。元気に後始末をしている。

しかし、残念なことにここで2名が脱落した。

今日のクルージングで得た体験は、きっと役に立つに違いないと彼等は思っていることでしょう。

## ●上級ライラに参加して

木口光太郎



私は昨年の秋の初級ライラに参加致しまして、今回上級ライラに参加させて頂きました。参加に当って、上級ライラとは何かということは、まったく知らずに参加致しました。初級に参加された皆さんは、上級ライラのことを御存知ない方が多いと思いますので、初級と上級の違いをお話したいと思います。

私達は5月3日朝9:30に集合し10:00にはヨットに乗せられ、気がついたら明石大橋の下まで行ってました。往路は順調でデッキでコーヒーなど飲んでゆったりしたクルージングでしたが、帰りは風速18m~20mと台風並みの強風と大きな波のうねりの中で、木の葉のようにゆれるヨットの操船(舵)は大変でした。同乗のロータリアンも上級ライラ参加者もほとんどの人が、波をかぶったり船酔いでもどしたりで決死のクルージングとなりました。私はもう参加をやめようと思いましたが、先に2名が脱落してしまったので云いそびれてしまいました。

2日目は小雨の中をカッター帆走をやりました。皆さんもカッターをされたと思いますが、私達のカッターは帆走も出来る少し大き目の9mカッターを使用しました。無風状態だったので帆走を試みましたが、潮に流されて結局オールで帰ってきました。

食事の方は皆さんは食堂を利用されたと思いますが、私達はほとんど自炊でした。

皆さんの中には自炊は大変だと思われる方もおられると思いますが、我々は皆自炊の方が楽しいと云う者ばかりでした。3日目の昼食はサヨナラパーティーということで、



自分達の好きなメニューで御馳走を作ることになりましたが、なぜか手打ちうどんになりました。炊込み御飯と手打ちうどんの大変おいしい食事をさせて頂きました。

今回初級ライラのテーマは「危機管理とリーダーシップ」でしたが、私達もリーダーシップについてゼミを行いました。

私達が日頃、子供達と行うゲームにも1つ1つ意味があるんだということを教えて頂き、求められる意識の持ち方ということを勉強致しました。

次の上級ライラは今年の秋に交野ロータリークラブのホストで行われるとお聞きしております。初級を修了された皆さんの中から、こういう方にぜひ上級に来て頂きたいと思っていることをお話ししたいと思います。今回は海で、次回は山で普段経験出来ないことが出来るわけですが、初級より上級はもっと厳しい研修になりますので、初級でもの足りない人はぜひ上級に参加していただきたいと思いません。又、アウトドア好きな方、自分から企画して提案して、リーダーシップをとることに楽しみをおぼえる方、今回初級のお世話を頂いたライラスタッフの方々を見て、自分もやってみたくと思われる方、そういう方々はぜひ上級に参加して頂きたいと思えます。

私達は上級に参加しましたが、まだ修了したわけではありません。あとプレキャンプがあり、ニコニコキャンプか初級ライラのお手伝いをして、ロータリークラブで卓話をして、やっと修了ということになります。上級ライラに参加することは正直言ってしんどいです。私もヨットの中でなぜこんなしんどい所にいるんやろうと思いました。しか

し3日間終わってみて、私を含め最後まで参加したメンバー各々が皆良かったと思っていますし、又機会があれば参加したいと思っています。

最後に素晴らしい機会を与えて下さったロータリーの方々に御礼を申し上げ、私の上級ライラ報告と致します。

### 5月3日(月) 20:35 リーダーシップについて

企画業務課主事 坂谷 恵司

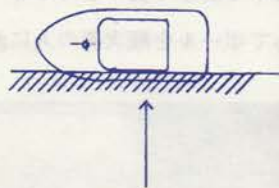
#### ○ 白鳥の安全性

- ・ 昼間は大変でしたね
- ・ 山のライラが行われた能勢には私も勤務していました。
- ・ 今回の船は落ちたら助けようがないし、助けなければ1時間後には死ぬでしょう。又、ライフジャケットは48時間すると沈みますから、確実に死ぬことになります。



2トンの鉛が入っている。

船室に水が入ると大変な事になっていたと思う。

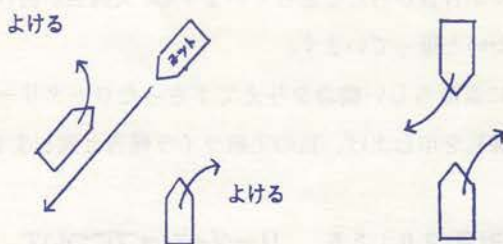


ここまでの水は大丈夫 (180° のゆれは大丈夫)





○ 操船ルール



お互い右によける

- ・定員：30名 定員オーバーは免許剥奪
- ・セールをあげている場合優先、ヨットとではヨット優先

○ 走らせ方の基本

(省略)

- ・ヨットは理論を勉強しなくてはならない。
- ・知識や技術の戦いである。

○ ゲームで遊ぶ

1. 三角座りから協力して手をつないで立上がる。最初ペアから10人位まで、体力や大きさの違いを考えて、力の入れ方で協力して立上がる。(思いやりや協力の勉強)

2. ビンボールをたくさん投げて、どれだけ多くつかめるか。実験では2ケ。考えればいろんな方法がある。

[例] 上着を背中であげて受けとめる等

3. 車座に座ってボールを順次隣の人に渡して行く速さを

競う。頭を使えば、輪を出来るだけ小さくすれば速くなる。

4. グループで名前や趣味を速く覚える方法。名前や趣味を云って相手にボールを投げる。順次繰り返す。これらのゲームで1つ1つに意味のあることを勉強した。学ぼうとする、参加しようとする、両者がそろってうまくいく。

○ リーダーシップについて

- ・目標の設定—課程—ゴールの設定を行なう。
- ・安心感を与える
- ・適確な方針を示す

○ 明日は9mカッターで3マイルほど沖に出て、帆走訓練を行なう。

● 5月4日(火) カッター活動研修記録

中村 善尚

1) 全員の息が合わないと進まない事を体験。

2) 帆を上げての航行では個人が自分の責任を果たしリーダーの指示の基、操船する事の重要性を認識。

3) 風向きと帆の角度の関係では理論上理解できても、実際に航行してみると風向きが不定のため、困難を感じた。

記録係の感想としましては、カッター活動の本来の目的であるメンバーシップの重要性を十分に体験できたと思われます。





●5月4日(火) 20:00 セミナー

企画業務課 課長 森 正司

・机の移動

上級ライラのシチュエーション

自分達でやろう

さりげなく実行しよう

プロセスの間で仲間意識が生まれてくる

・ブタ汁は段々おいしくなる

負荷ををかけて反動で良さがわかる。

青少年指導ができるリーダーとして期待しています。

・おはよう朝日：5月13日(木)取材にくる。

・心の中に4つの窓がある。

・アイスブレイキング。氷を割る。ツチで既成概念を破る

・ゲームをするときは必ず2回繰り返す。

2/3は理解するが1/3はできない。

ジャンケンをする、勝ち負けで順に名前(フルネーム)を書いてゆく。

・勝った人が自分の紙に順に書いてゆき4人書き終わったら、順にイスに座る。最後に握手をし、×で名前を消してゆき順にすわってゆく。

○ 青少年活動について

・冒険クラブ：子供達との情報交換。その時その時の話題を聞いてみる。

・大学を卒業するか、していない年代の人達が一番都合が良いか。子供にとってもとつきやすい年令か。

・森課長も若い時はリーダーであった。その関係で現在就職している。

・パラグライダーもしている——ヨットと同様風を読む——仲間が新しくできる——インターネット交流をしている(毎日5~6通ある)——自分でログハウスも作った。

・海洋センター1泊1400円/1人

6万人利用者がいる(ノルマ6000万/年間必要)

・運営費35%カット(電気、水道料等)

・日帰りのセーリングスクール：本年度より実施している。

・目標を突破するべく努力している。

・原点に帰って考えてみよう。

○ 私の青少年活動

1) 津田さん 海洋センターに入ったのは趣味より、子



供好きであった。人前で話しをするのが苦手であった。オールマイティーリーダーになりたかった。青少年活動をすることによって苦手を克服できた。

○ J C : 年間活動 小さいヨットに子供を乗せて教育してゆく

2) 木口君 若手への就職活動の手助けをしている。「戦え就職活動」(250頁の本)の著書がある。(木口光太郎代表は NTT : ネットワークを通じて参加した)

3) 井上さん ローターアクト：クラブ間の交流、国際交流きっかけ暇な時期があり入会した、5年目になる。啓蒙が困難である。

4) 三嶋君 警備の仕事をしている。写真の仕事がしたい。写真がきっかけでローターアクトクラブに入会した。有名カメラマンになりたい。

5) 小堀さん 看護大に行っているが、寂しい人に対して楽しくしてあげたい。海洋センターに入ったが大学も多忙で、あまりセンターに来れない。色々な経験がしたい。

6) 森岡君 会社に入って7年位になり、外に目をむけるようになってきた。組合の仕事をしている。そのイベントで青少年活動をしている。人前でしゃべることが苦手である。

7) 山本君 高校2年に青少年活動に参加した。高校の先生に誘われた。子供が好きである。

親にローターアクトを勧められた。空手を子供に教えている、子供をしかる時もある、子供に続けてゆける楽しさを学んで欲しい。

8) 紺谷君 ボーイスカウトを20年続けている。人前でしゃべることができるようになってきた。25才、リーダーをしている。就職して7年になる。活動センターでのボランティアに対し、あこがれを持っていた、ローターア



クトに入った。いずれはボーイスカウトのリーダーをしたい。

9) 石田君 コンピューター関係の勉強をしている。ローターアクト会長をしている。体験活動を通じて皆さんの意見を皆で聞いた。そしてチームができた。お互いがカウンセリングしている、この場が青少年活動である。

○ 自己実現の欲求 (5段階の欲求)



● 5月3日(月) 21:30 懇親会

板垣 ロータリアンへの質問をしてください。

坂谷 乾杯の音頭

田中 学生 3名、社会人 6名、2名脱落

順次質問して行って下さい。井上さんからどうぞ

井上 ロータリーの中で熱心な人と不熱心な人がいるが?

田沢 気持ちの問題です。

渡辺 年令のギャップによる退会者などの問題もあります。

井上 なぜライラに参加しているのか。

小堀 センターの推薦で参加した。リーダーシップを磨きたいのは、大学生になって何か一生懸命やりたかった。苦手分野(人前で話す事)を克服したかった。

小堀 夢を実現するために、どんな事をしたか

中村 病気は看れるが、患者をみるのがむづかしい。

(何のためにリーダーシップを)

森岡 皆とワイワイするのが好き、リーダーシップをとりたいたとは思わないが、自分の価値観で人は寄ってくる。

(若い人達に運転をまかせて)

田中 あまり心配していなかった。

木下 ゆれる所を早く脱出してほしかった。

板垣 今日、残っている人達は希望が持てる。

(ローターアクトが残っていることに)

板垣 ロータリアンに上級ライラが浸透していない。今少し時間がかかる。

森岡 ラックと話し合いをしているのか?

板垣 ライラとラックは基本的には別、まだまだ浸透していないので、ローターアクトに お願いしている。

井上 初級など会社命令できた人などもある。もっと目的を教えるべきではないか。

木口 どういう事をするのか、最初は教えてもらえなかった。プログラムをもっと説明し、明確に目的を教えておけば状況も変わる。

渡辺 プログラムが混んでいれば、もっとゆっくりしたプログラムでもよい。

井上 初級の人の上に行きたくするようなプログラムを考えて欲しい。

猪奥 木口さんは考えている事と現実とどう違った。

木口 主旨は関係なかった。

紺谷 ライラは始めてです。人が好きです。スタッフ的な事が好きです。

津田 リーダー組織をまとめていくのが4年目の今、悩んでいます。

三嶋 ガードマンの仕事明けで遅れてすいません。

山本 ローターアクト7年目です。一般の人、ローテックスの人達ともうまく行けるようなプログラムを組んで欲しい。

森 自然体の参加がいいのではないかと「病気は看れるが患者はみれない」は皆に共通の事。





●5月4日(火) 21:50 懇親会

リーダー(指導者) 坂谷 恵司(企画業務課)

受講者8名、ロータリアン6名、指導者2名計16名

・タマゴパフォーマンス(3階[10m]よりタマゴ落下テスト、割れないで落す)

・成績発表

Aチーム 157

Bチーム 177 優勝

Cチーム 173

○上級ライラは事前研修が必要である(センター森課長)

○受講者全員、山のライラにも参加したい

(地区板垣委員長)

・参加は海・山問わず1回のみ

・今後地区委員会で検討する

・参加料として各RC(スポンサー)が1人当たり20,000円負担している

○今回のライラ参加者は4期生である。

●第4回 上級ライラ研修閉講式 式次第

平成11年5月5日12:00~12:30

司会 地区委員 田中 信明

挨拶 地区青少年活動委員会委員長 有賀一夫

RI第2660地区インカミングガバナー 柏木 尚

大阪鶴見ロータリークラブ会長 村瀬景三

講評・修了証交付

上級ライラ実行委員長 板垣美一

講評

海洋センター企画業務課長 森 正司

海洋センター企画業務主幹 坂谷恵司

励ましの辞

大阪鶴見RCライラ実行委員長 佐藤俊一

●第4回上級ライラ役割分担

1999.5.3~5

1. 受付・登録

海洋センター(中村 善尚)

a) 資料

b) ロータリーソング歌詞(30枚)板垣

(田中 有)

c) Tシャツ

d) 登録者チェック

ロータリアン8名

青少年 8名

センター職員 5名

センター受講者 2名

2. 連絡

a) 有賀委員長との連絡

(田中 信明)

b) 初級との窓口(鶴見RC ライラ本部)

(木戸 正)

c) 海洋センターとの窓口(企画業務係)

※ 携帯電話持参 0724-94-1811

3. 会計

(田澤 洋一)(板垣 美一)

4. 記録

a) 研修記録

5月3日

クルージング(田中 信明)

ゼミ(木下 久則)

懇親会(田中 有)

5月4日

カッター(中村 善尚)

ゼミ(木下 久則)

懇親会 (田中 有)

5月5日

パーティー(準備共)(木戸 正)

全体まとめ(平林 昇)

b) ビデオ記録(田澤 洋一)

c) 写真記録(田澤 洋一)

5. ゼミ設営

準備するもの、講師との打合(田中 信明)(平林 昇)

(木下 久則)

6. 懇親会

飲み物、おつまみ、設営(田中 信明)(平林 昇)(木

下 久則)

7. 救急(中村 善尚)

8. 来賓

開講式、実施研修閉講式(板垣 美一)



# 春のライラ決算報告

## 初級

収入の部	金額	支出の部	金額
登録料 8,000円 ロータリアン 300名 青少年 81名 381名×8,000円	3,048,000	センター利用費 (含海風館) バーベキュー食料費 保険料 記念品代 講師御礼等 準備打合せ費 設営費 飲食・菓子代 事務用品等 Tシャツ (ユニホーム) 郵送料 報告書作成費 記録費 (写真・ビデオ等) 印刷費 雑費	1,266,037 138,096 48,000 213,203 320,000 199,650 191,125 340,741 77,480 240,000 84,690 550,000 160,000 260,660 123,820
大阪鶴見RC登録料 ロータリアン 44名 青少年 37名 81名×8,000円	648,000		
地区助成金	400,000		
上級ライラからの振込	120,000		
合計	4,216,000	合計	4,216,000

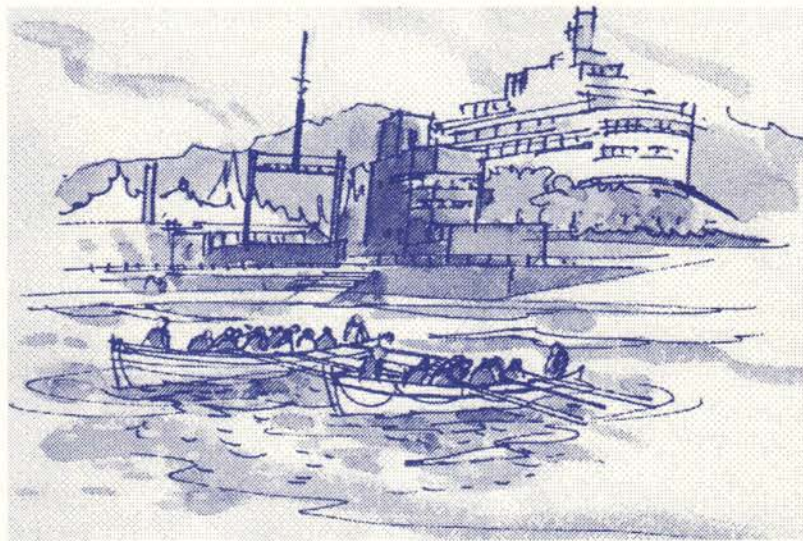
## 上級

収入の部	金額	支出の部	金額
(登録料) 青少年 9名×20,000 ロータリアン 8名×8,000	180,000 64,000	(宿泊及び施設使用料) 海洋センター宿泊 10人×2泊×1,400 海洋センター半日 10人×680 海風館宿泊 7名×1泊, 8名×1泊×6,000 (食料費) 3日昼食 4,811+4,588 3日飲み物 3日夕食 9,546+1,900+3,000 4日朝食 4,666+1,181+1,071 4日昼食 弁当 4日夕食 海風館 5日朝食 給食 5日昼食 懇親会飲み物 20名×2日×1,000 (プログラム) クーラーBOX トローリング 食事まき代 写真代 ビデオテープ代 ビデオ編集助成金 薬代 報告書作成助成金 プログラム用紙代 送料 ライラ印鑑代 プレキャンプ代 (9月5日予定)	28,000 6,800 90,000 9,399 7,086 14,446 6,918 15,225 65,875 7,790 8,003 40,000 3,129 5,120 1,750 4,520 2,058 30,000 2,457 50,000 2,478 2,480 338 40,133
地区助成金	200,000		
受取利息	3		
合計	444,003	合計	444,003









1998～1999年 春のライラ 記録誌

主 催： 国際ロータリー第2660地区 青少年活動委員会

ホストクラブ： 大阪鶴見ロータリークラブ